

# 地学オリンピック支援委員会 第3回議事録

2012年1月27日  
委員長 田中 義洋

期 日：2012年1月21日（土）17：00 - 19：00

場 所：日本地質学会事務局

出席者：田中委員長 川村副委員長 久田理事 浅野 川勝 小泉 芝川 平田 渡来各委員

欠席者：香束委員（委任状提出あり）

出席者9名、委任状1名、合計10名の出席で委員会は成立

## 議題

- 1) 第5回国際地学オリンピックの報告
- 2) 第4回日本地学オリンピックの報告と予選の案内
- 3) 国際地学オリンピックシラバスと規約の改定
- 4) 小・中学生の地学サポーターを生み出すためには
- 5) 地質情報展の内容検討
- 6) サイエンスライター関連事業への支援
- 7) 今後の活動

## 詳細

### 1) 第5回国際地学オリンピックの報告

田中委員長から第5回国際地学オリンピックイタリア大会の成績ならびに大会の概要の説明があり、今後、日本選手に求められる資質としては、大会期間を乗り切る体力や精神力も重要となってくることが報告された。川村副委員長からは、試験に関して、一部高等学校の地学では取り扱わない問題も出されたものの、おおむね高校レベルの出題がなされたことも報告された。

これについて、委員からは、国際科学オリンピックの上位国は ISEF（国際学生科学技術フェア）でも好成績を収める国が多いことや SSH の活動による分析からは他国や他地域の理科教育はより先進的であることが指摘された。また、今以上に理科教育に力を入れるべきであり、自然科学と英語との結びつきを考える必要もあるとの意見も出された。

### 2) 第4回日本地学オリンピックの報告と予選の内容

久田理事から、今回は応募者数924名、実際の受験者数は791名で、当日の欠席者数が若干多かったものの、ともに前回大会の参加者数を上回ったとの報告があった。また、学習指導要領の改訂に伴い、出題範囲の設定をどのようにするかについて議論を行った。そのほか、以下のような話し合いが行われた。

12月の日本地学オリンピック大会予選は高校地学のベースとなるべきものであることが望ましく、試験問題もひと通り学んだ生徒が受験するには良い（手ごたえのある）問題となっている。

その一方で、高校の地学はその多くが高校2年次または高校3年次に履修することが多い。そのため、予選時には学校で学んでいない分野からも出題される状況である。特に、高校3年生は大学

の推薦入試と重なるために日程的にも厳しい状況となっている。また、地学全般が好きだったり得意だったりする生徒は稀で、各分野の寄せ集めの観があると感じていることや分野ごとに好き嫌いをはっきり分かれる傾向があることも指摘された。

本委員会では、履修と正答率の関係を把握するなどの分析が必要であり、受験者の現状を考えるとして解説書を兼ねた過去問問題集などがあると望ましいとの認識に至った。

さらに、地学の裾野を広げるための方策として、国際大会の選抜という狭き門への挑戦だけではなく、受験者層の拡大や受験者全員の励みとなるような仕組みについても議論した。具体的には、「一次選抜の問題を基礎問題と発展問題の2つに分けて、センター試験の力試しをしたい人の要望にもこたえてはどうか（この場合、選抜については発展問題で兼ねる）」、「国際大会へは高校生が派遣されるとしても、小さい子どもからお年寄りまで、老若男女が受験できるようにする。」、「分野別や都道府県別の優秀者に表彰状を贈る」などの意見が出された。

### 3) 国際地学オリンピックシラバスと規約の改定

久田理事から、国際地学オリンピック委員会では、現在、台湾の委員を中心としてシラバスと規約の改正が行われているという報告がなされた。また日本としては、主に国際地学オリンピック参加への年齢制限と出場制限に関して見直しを要請する予定である。

この件に関しては、久田理事からシラバスと規約の改定案に関する資料が配られ、今後、メーリングリストで議論することとなった。

### 4) 小・中学生の地学サポーターを生み出すためには

久田理事から、底辺拡大の方策の一つとして、2012年度に小・中学生を対象とした自由研究コンテストを実施することが報告され、広報の方法やコンテストの表彰に関して議論を行った。

この種の自由研究コンテストは全国各地で実施しており、夏休みには科学の祭典などをはじめ、数多くの自由研究関連イベントが開催される。このようなイベントを通じて、コンテストの応募用紙を配布するのが効果的だということで、その方向で応募を募ることとなった。

### 5) 地質情報展の内容検討

渡来委員から2011年9月の地質情報展では、新たにポスターを5枚制作してブース展示したことが報告された。合わせて、委員の方からこれまでに寄せられた感想や意見などを紹介し、次回に向けてメーリングリストで議論を行っていくことを確認した。

### 6) サイエンスライター関連事業への支援

久田理事から、地質学会広報誌のジュオルジュに関して説明が行われ、サイエンスライターの方々の紹介や今後の展望などの報告がなされた。

### 7) 今後の活動

田中委員長から、この時期に本委員会を日本地質学会事務局にて定期的で開催することが提案され、承認された。これまでと同様に、メーリングリストを活用しながら、地質学会学術大会などに合わせて委員で集まり、議論を進めていくことを確認した。